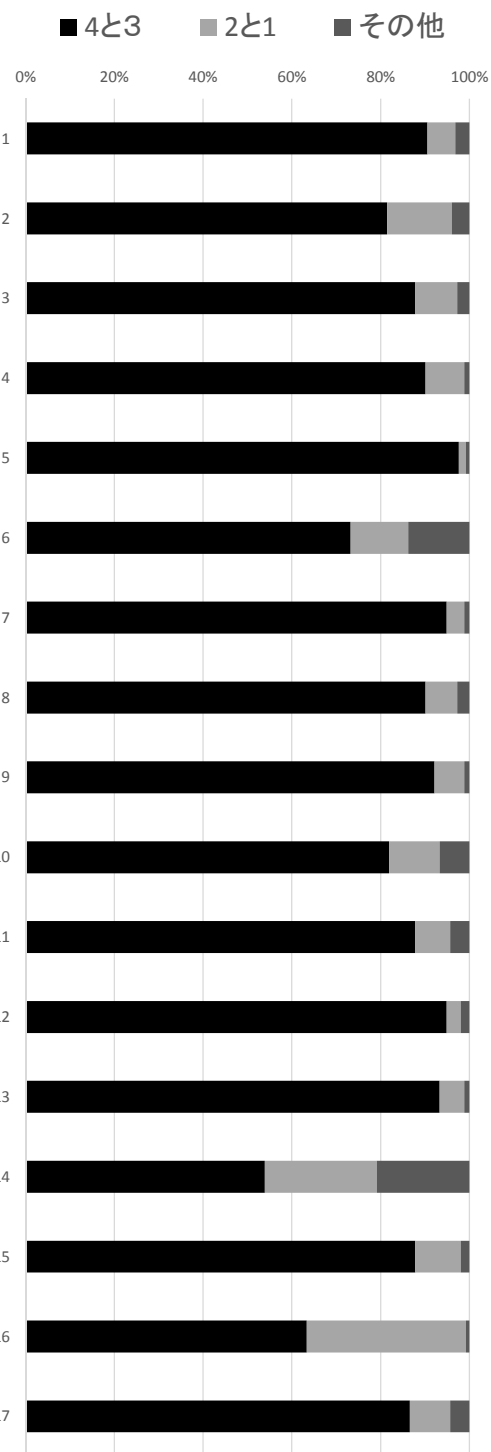


平成27年度「学校評価」保護者アンケート結果

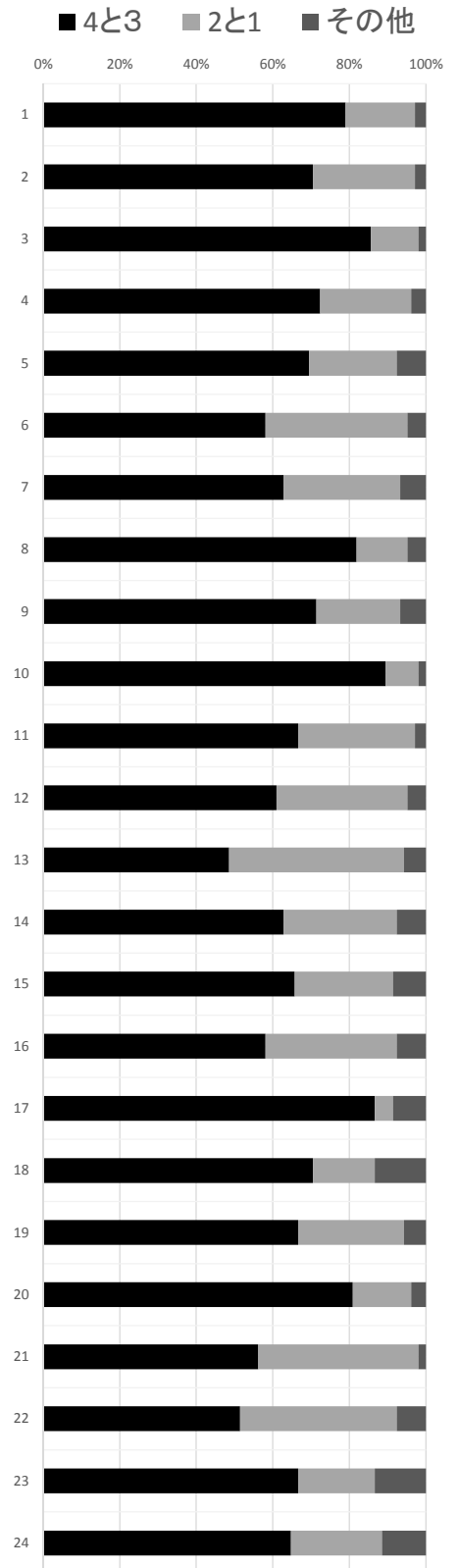
分野	NO.	項目	4と3の合計	評価
学校運営	1	学校は、保護者会や学校だより等を通じて学校経営方針(教育方針)をわかりやすく伝えている。	91%	A
	2	学校は、学校公開やホームページ等により、学校のPR活動を積極的に行っている。	81%	A
	3	学校は、開かれた学校づくり委員会、ミニ集会、学校評価アンケート等により学校評価を行い、改善に努めている。	88%	A
	4	学校だより、コースだより等により、生徒の学校生活の様子が保護者の方にわかりやすく伝えられている。	90%	A
	5	校舎内外の環境(掲示物、清掃、グラウンド整備、整理整頓等)は、よく整っている。	98%	A
	6	学校は、火災・地震等の避難訓練の実施、非常食の用意等、災害に対して適切に対応している。	73%	B
教職員の指導・支援	7	学校は、個別の教育支援計画・個別の指導計画をもとに、家庭と連携して支援を行っている。	95%	A
	8	個別の指導計画や通知表は、保護者が知りたいお子様の様子についてわかりやすく記述されている。	90%	A
	9	教職員は、お子様の実態や様子などに応じて、親身になって適切に指導、支援している。	92%	A
	10	学校は、学力向上のために教科学習を計画し、きめ細かな指導、支援をしている。	82%	A
	11	学校は、基本的な生活習慣の確立に向けて、きめ細かな指導、支援をしている。	88%	A
	12	学校は、デュアルシステムを取り入れた授業展開を積極的に行っている。	95%	A
	13	学校は、現場実習、職場開拓、研修会の開催など、お子様の様子に応じて進路支援が適切に行われている。	93%	A
	14	学校は、近隣の中学校・高等学校との交流を適切に行っている。	54%	C
お子様の様子	15	お子様は、学校に行くことを楽しみにしている。	88%	A
	16	お子様は、家庭で学校の様子についてよく話をする。	63%	B
	17	今年度のお子様の成長に満足している。	87%	A



評価A 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 80% 以上
 評価B 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 60% 以上 80% 未満
 評価C 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 60% 未満

平成27年度「学校評価」職員アンケート結果

経営の重点	NO.	項目	4と3の合計	評価
(1)教職員像	1	本校の職員は、生徒の良いところを見つけ、生徒の立場・目線に立って、自立のために励んでいる。	79%	B
	2	本校の職員は、学校経営に主体的に取り組み、信頼感と互いに協力し合う人間関係を築いている。	70%	B
	3	本校の職員は、生徒の想いや願いを尊重し、優しく愛情を注いでいる。	86%	A
	4	本校の職員は、けじめがあり礼儀正しく、誰からも信頼されるよう努めている。	72%	B
(2)生徒像	5	本校の生徒は、個性を発揮し、日々自分から意欲的に学習に励んでいる。	70%	B
	6	本校の生徒は、青年期にふさわしい礼儀をもち、明るいあいさつができる。	58%	C
	7	本校の生徒は、将来への夢と希望を創造し、その実現に向けて努力している。	63%	B
	8	本校の生徒は、仲間を思いやり、協力し、人や自然に優しい心をもっている。	82%	A
	9	本校の生徒は、働くことの大切さを知り、責任をもって何事にも取り組んでいる。	71%	B
(3)職業教育の充実	10	本校は、事業所とのデュアルシステムを取り入れた授業展開を積極的に行っている。	90%	A
	11	本校は、企業の講話やソーシャルスキルトレーニング等を取り入れたビジネスマナーの導入を積極的に行っている。	67%	B
	12	本校は、企業や地域の専門家を活用した授業実践を積極的に行っている。	61%	B
	13	本校は、ビジネススキルの一つとして情報機器、情報活用能力の育成を積極的に行っている。	49%	C
	14	本校は、「校産校消システム」による教育活動の充実と効率化に積極的に取り組んでいる。	63%	B
(4)教科学習の充実	15	本校は、教科学習の時間を十分に確保している。	66%	B
	16	本校は、生徒が学習そのものに興味をもち、探求していける教育課程の工夫をしている。	58%	C
(5)進路指導の充実	17	本校は、葛南地区の特別支援学校、就業支援機関、ハローワーク等の関係機関との連絡会議を実施し、支援体制の構築に努めている。	87%	A
	18	本校は、職業学科や職業コースを設置している特別支援学校との情報交換を積極的に行っている。	70%	B
(5)豊かな学校生活	19	本校は、委員会活動等の特別活動、総合的な学習の時間、道徳等の実践により、人間関係調整能力、自己選択、自己決定力を育てている。	67%	B
	20	生徒は、多様な課外活動の選択により、趣味に打ち込み、競技大会やコンクールへ積極的に参加したり、資格の取得等に挑戦したりしている。	81%	A
	21	本校は、生徒指導部を中心に、組織的な生徒指導を行っている。	56%	C
	22	本校は、近隣の中学校・高等学校と行事や授業、部活動等の交流を積極的に行っている。	51%	C
(6)地域のセンター的機能	23	本校は、近隣の中学校・高等学校への教育相談及び進路相談を積極的に行っている。	67%	B
	24	本校は、中学校からの実習の受け入れ等による中高一貫したキャリア教育を推進している。	65%	B

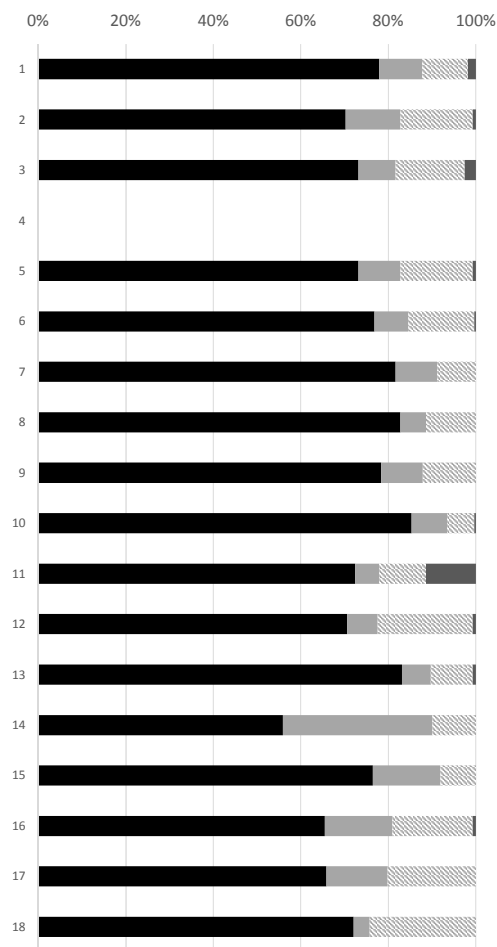


評価A 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 80% 以上
 評価B 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 60% 以上 80% 未満
 評価C 4(良い)、3(まあまあ良い)の合計の割合 60% 未満

平成27年度 学校生活についてのアンケート結果(生徒)

NO.	項 目	はい	いいえ	わからない	無答	評価
1	学校は楽しいですか？	77%	11%	7%	4%	B
2	専門教科は楽しいですか？	59%	17%	23%	1%	C
3	教科の授業は楽しいですか？	76%	10%	10%	4%	B
4	一番楽しい教科は何ですか？					
5	真面目に授業に取り組んでいますか？	74%	11%	15%	0%	B
6	授業はわかりやすいですか？	78%	12%	10%	0%	B
7	登校時間や授業の始まるの時間を守っていますか？	80%	9%	11%	0%	A
8	登校や下校のときに、交通ルールを守っていますか？	80%	5%	14%	0%	A
9	学校のきまりを守っていますか？	77%	10%	13%	0%	B
10	真面目に清掃活動に取り組んでいますか？	84%	9%	8%	0%	A
11	部活動は楽しいですか？（部活動に入っていない人は答えなくてよい）	75%	3%	8%	14%	B
12	先生は、困ったときに相談に乗ってくれたり、よく話をきいてくれますか？	71%	8%	21%	1%	B
13	クラスの友人となかよく過ごしていますか？	84%	4%	10%	2%	A
14	学校の様子を自宅で家族によく話をしますか？	57%	35%	9%	0%	C
15	学校からの配付物は、きちんと家庭に持ち帰って渡していますか？	72%	17%	11%	0%	B
16	夢や目標を持って生活していますか？	60%	20%	20%	1%	C
17	目標に向かって一生懸命努力していますか？	61%	21%	18%	0%	B
18	デュアル実習や現場実習で、はたらく力がついてきたと思いますか？	67%	2%	30%	0%	B

■はい ■いいえ ■わからない ■無答



専門	36	家庭科	12
国語	14	情報	23
社会	32	職業	6
数学	24	音楽	33
理科	27	美術	27
英語	27	無回答	18
体育	107		

評価A 「はい」と答えた生徒の割合が 80% 以上
 評価B 「はい」と答えた生徒の割合が 60% 以上 80% 未満
 評価C 「はい」と答えた生徒の割合が 60% 未満

平成 27 年度 学校評価について

学校名 千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学 校 経 営	<ul style="list-style-type: none"> ①特別活動, 総合的な学習の時間, 道德等の実践については, 学校評価アンケートでは, 67%が「良い」又は「まあまあ良い」(以下, 「肯定的評価」)として評価しており, 前年度とほぼ同じであった。 ②学校から発信する各種たよりや校内の掲示物等については, 肯定的な評価が, 90~98%と大変高い評価を得た。 ③評価方法について, 今年度から肯定的な評価の割合でABCの評価をつけるように変更したことで, より分かりやすくなった。 ④校内LANを活用して各種文書や連絡の効率化を図ってきた。職員室に大型モニターを設置して連絡等に活用するようになった。 ⑤ホームページの更新による最新情報の提供については, 肯定的な評価が81%で高かった。しかし, 本校のホームページへの関心そのものは, あまり高くないことが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「良い」又は「まあまあ良い」(以下, 「肯定的評価」)の割合を, 75%まで高めることを目標として, 来年度は, 担当者を中心に, 総合や道德で活用できる教材の充実を図り, 学年で統一した活用を推進していく。 ②引き続き, 各種たよりや校内の掲示物の充実を図っていくが, たよりの内容が重複しないように調整をしておく必要がある。 ③アンケートの実施時期や方法については継続するが, 評価項目・内容については, 現状に合わせて改善が必要である。学校教育目標等と合わせて見直しを図っていく。 ④各種文書の作成にあたっては, 情報の漏洩や作成ミスなどが起こらないように, 利便性よりも安全管理を優先してシステムを整備していく。 ⑤学校ホームページは, より分かりやすく興味をもってもらえるように内容等を工夫して, 情報提供を行っていく。また, 一斉メール送信システムともリンクさせて, 最新の情報提供に努める。
キ ャ リ ア 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ①デュアルシステムの取組は肯定的な評価が95%と大変高い。本校の特色であり, 取組の基盤として, 引き続き内容の充実を図っていく。 ②専門教科における職員の専門性の向上については, コース主任を中心に常に研修に取り組み, 指導力向上に努めてきたが, 生徒の専門教科に対する肯定的評価は, 59%と低い。改善が必要である。 ③ライフキャリアの育成については, 肯定的な評価が88~93%で, 高い評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デュアルシステムの取組を維持するためには, 教員一人一人の相当な努力と学校としての創意工夫が必要である。本校の取組の基盤であることを再認識して, 学校として一体となって継承・発展を目指していく。 ②全コースとも外部講師による継続的な指導が受けられるよう, 人材の発掘に努め, 専門教科の専門性の維持向上と指導力の充実を図る。 ③デュアルシステムにおける実習と校内での学習の関連性について研究し, 互いの関連を強化することで, さらなるライフキャリアの育成を図る。
学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ①と②。毎週水曜日を, 専門教科がなく教科指導に集中して取り組む日として, 教員の指導体制も含めて, 効率化を図ることができた。肯定的な評価も82%と高かった。 ③と④。個別の指導計画や通知表等についての肯定的評価は90~95%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①と②。教科会を充実させ, 教材や指導方法の共通化を図り, 指導力の向上を目指す。他校との研修の機会ももつようにする。 ③と④。引き続き, PDCAサイクルによる取組の充実を図る。
生 徒 指 導 ・ 課 外 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ①組織的な生徒指導体制については, 肯定的な評価が56%と低かった。様々な課題のある生徒が増加する中, 学校全体が一体となった生徒指導体制の構築が喫緊の課題である。 ②と③。一人一人異なる生徒の課題に対して, 校内外の様々な立場の者が連携して, 支援を展開することができた。毎週, 複数の支援会議を実施してきた。 ④多様な課外活動に対する支援については, 肯定的な評価が81%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①と②と③。一人一人の生徒に対する個別的な対応においては, 重篤なケースでは支援会議を頻繁に行い, 関係者が連携して対応にあたってきた。しかし, 学校全体を見渡して, 組織的に共通の対応を行う生徒指導体制の構築はこれからである。次年度, 最優先課題として, 人と時間を確保して, 体制作りに取り組む。 ④引き続き, 課外活動に関する賞賛の機会を多く設定するなどして, 課外活動への取組を支援していく。
地 域 支 援	<ul style="list-style-type: none"> ①近隣の中学校, 高等学校への教育相談については, ニーズに応じて対応した。 ②葛南地区の中学校(特別支援学級設置校)からの体験学習を受け入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援教育コーディネーターが中心となって, 外部からのニーズに応じて対応していく。 ②引き続き, 葛南地区の中学校からの体験学習を受入れていく。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学 校 経 営	<p>①特別活動，総合的な学習の時間，道徳については，引き続き取組の充実を図り，自己理解，自己選択，自己決定の力を高めてほしい。</p> <p>②学校から発信する各種たよりや校内の掲示物等については，大変よく整えられている。今後は，地域に向けての発信を充実させてほしい。</p> <p>③学校評価のうち，保護者からの評価が他校と比べて，総じて大変高く，すばらしい。一方，自己評価(職員評価)は大変きびしく評価している。自分たちの学校の将来性を変え得るものとして高く評価しているとも言えるが，少し，厳しすぎると思う。自信をもって，もっと高く評価して良いと思う。</p> <p>④PCの活用にあたっては，利便性も必要であるが，まずは，情報管理を徹底して行うようにすることが必要である。</p> <p>⑤学校ホームページは，より分かりやすく運用してほしい。</p>	<p>①特別活動，総合的な学習の時間，道徳については，担当者を中心に教材研究に取り組み，学年で統一して活用できる教材整備を図り，時間における指導を充実させ，卒業後の自立と豊かな社会参加に結びつけていきたい。</p> <p>②校内での情報発信は引き続き丁寧に行い，さらに地域の住民や事業所に向けて，学校ホームページや生徒会組織等を活用して，学校からの情報提供に努め，様々な角度から地域とのつながりを深めていきたい。</p> <p>③学校評価アンケートについては，開校以来同じ項目で実施してきたが，現状に合わせて，より効果的に学校の教育活動の改善に資するよう，見直しをしていく必要がある。</p> <p>④情報管理や文書作成においては，「ヒューマンエラー」を前提として，ミスを発見・修正できる仕組み作りを第一に考えて取り組むようにする。</p> <p>⑤学校ホームページは，より分かりやすく工夫して，新しい情報を提供することに努める。</p>
キ ャ リ ア 教 育	<p>①デュアルシステムは，本校独自の取組であり，評価も大変高い。本校の基盤として，しっかりと取り組んでいってほしい。</p> <p>②専門教科における専門性の向上には，目を見張るものがある。それは，製品の質の向上に端的に表れている。今後も，研究会や外部講師による研修等自己研鑽に励み，専門性・指導力の維持・継承・発展に努めてほしい。</p> <p>③ライフキャリアについては，デュアル実習はもちろんのこと，学校生活全般を通して，その育成を図る必要がある。</p>	<p>①デュアルシステムの取組を維持するためには，教員一人一人の相当な努力と学校としての創意工夫が必要である。開校して4年が過ぎ，教員も入れ替わってきている。本校の目標や目指す生徒像など，本校の取組の基盤について，次年度初めにあらためて全員で再確認して，学校として一体となって取り組んでいく必要がある。</p> <p>②全コースとも外部講師による継続的な指導が受けられるよう，人材の発掘に努め，専門教科の専門性の維持向上と指導力の充実を図る。</p> <p>③デュアルシステムにおける実習と校内での学習の関連性について，研究のテーマとして取り上げて，その強化を図り，ライフキャリアの育成に資するものとする。</p>
学 習 指 導	<p>①と②。知的障害のある特別支援学校においても，学力向上は重要な課題である。専門教科とともに，各教科等の指導についても，学校組織として，その充実に取り組んでいく必要がある。教員一人一人が自覚しなくてはならない。</p> <p>③と④。個別の指導計画や個別の教育支援計画，移行支援計画，通知表等は，分かりやすいものを目指してほしい。</p>	<p>①と②。教科会を充実させ，教材や指導方法の共通化を図り，指導力の向上を目指す。他校との研修の機会ももつようにする。また，全校規模での研究会はまだ難しいが，各自が専門教科ではなく，各教科等での授業研究にも率先して取り組むよう，働きかけていく。</p> <p>③と④。引き続き，PDCAサイクルでの取組の充実を図る。特に，評価については，その規準設定も含めて，丁寧に行うようにする。</p>
生 徒 指 導 ・ 課 外 活 動	<p>①と②と③。生徒指導に関しては，個別ではなく，とにかく組織で対応することが必要で，また，外部機関との連携や情報交換も欠かせない。</p>	<p>①と②と③。個々のケースには，関係者が連携しての対応ができてきたが，学校全体を俯瞰して共通対応を行う組織とはなっていない。次年度，最優先課題として，人と時間を確保して，警察や児童相談所，病院，福祉支援機関等との連携や，他の高等学校や特別支援学校との情報交換にも積極的に取り組み，学校として一体となった生徒指導の体制づくりと実践に取り組んでいく。</p>
地 域 支 援	<p>①引き続き，地域のニーズに応じて支援してほしい。</p>	<p>①特別支援教育コーディネーターが中心となって，外部からのニーズに応じて対応していく。</p>